



ニッセイ世界ハイブリッド証券戦略ファンド

(毎月決算型・通貨プレミアムコース)

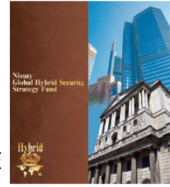
愛称：アドバンスド・インカム (毎月・通貨プレミアム)

追加型投信／内外／その他資産 (ハイブリッド証券)



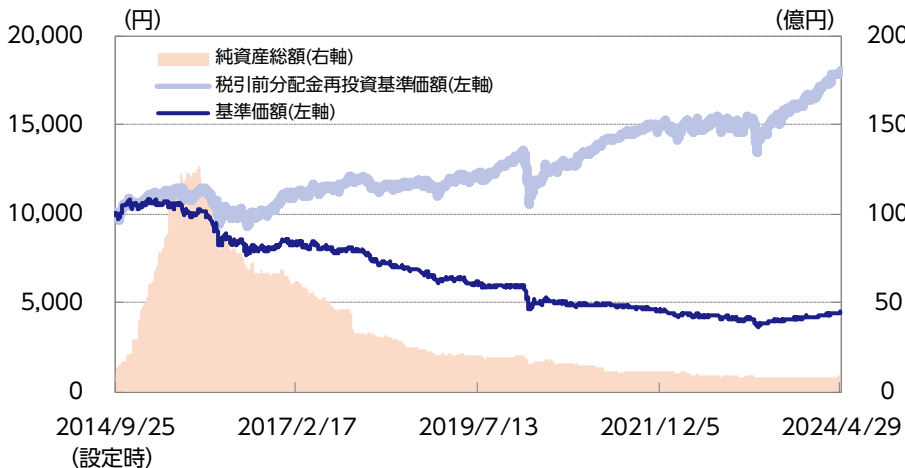
マンスリーレポート

2024年4月末現在



運用実績 通貨プレミアムコース

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	4,455円
前月末比	63円
純資産総額	851百万円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

第109期	2023年10月	20円
第110期	2023年11月	20円
第111期	2023年12月	20円
第112期	2024年01月	20円
第113期	2024年02月	20円
第114期	2024年03月	20円
第115期	2024年04月	20円
直近1年間累計		260円
設定来累計額		8,970円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	1.4%	5.1%	12.6%	24.2%	26.9%	80.6%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります (個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

組入比率

ピムコ バミューダ キャピタル セキュリティーズ ファンドC-クラスJ (C-USD)	47.1%
ピムコ バミューダ キャピタル セキュリティーズ ファンドA-クラスJ (USD)	51.3%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0%
短期金融資産等	1.6%

※対純資産総額比

基準価額の変動要因

債券要因	インカム	33円
	キャピタル	-49円
為替要因	価格要因	60円
	オプション要因	27円
その他 (信託報酬等)		-7円
小計		63円
分配金		-20円
合計		43円

※要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

※各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。

※債券要因および為替要因は、外国投資信託証券の運用会社であるピムコ (PIMCO: パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー) の資料 (現地月末営業日基準) に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

(満期償還のお知らせ)

「ニッセイ世界ハイブリッド証券戦略ファンド (毎月決算型・通貨プレミアムコース) 愛称：アドバンスド・インカム (毎月・通貨プレミアム)」は、当初予定通り2024年9月17日をもって信託期間が満了し償還いたします。

投資対象ファンドの状況

※投資対象ファンドの状況は、当ファンドが主に投資対象とする「ピムコ パミュダグ キャピタル セキュリティーズ ファンドCークラス」(C-USD) / 「ファンドAークラス」(USD) の状況を表示しており、以下の表およびグラフ中の数値は、上記2ファンドの運用会社である、ピムコの資料（現地月末営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

ポートフォリオ情報

平均格付	※1	A-
平均デュレーション	※2	3.03年
平均最終利回り	※3	8.45%
平均クーポン	※4	6.23%
平均直利	※5	6.46%
銘柄数		101
カバー率	※6	49.2%
プレミアム	※7	6.3%

※対純資産総額比

※1 格付は、ムーディーズ、S & P、フィッチレーティングスのうち、上位の格付を採用しております。上記の3社により格付が付与されていない場合、ピムコの社内格付を使用しています。以下同じです。
また平均格付とは、投資対象ファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。
※2「デュレーション」=債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。
※3「最終利回り」=満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。
※4「クーポン」=額面金額に対する単年の利息の割合を表します。
※5「平均直利」=平均クーポン÷平均時価単価
※6「カバー率」=外貨建て資産に対する通貨オプションポジションの割合を表します。
※7「プレミアム」=純資産に対する年率調整後のオプションプレミアム収入を意味します。

格付分布

AAA格	6.5%
AA格	3.5%
A格	0.6%
BBB格	59.8%
BB格以下	29.6%

※対純資産総額比

※ピムコによる社内格付を含みます。

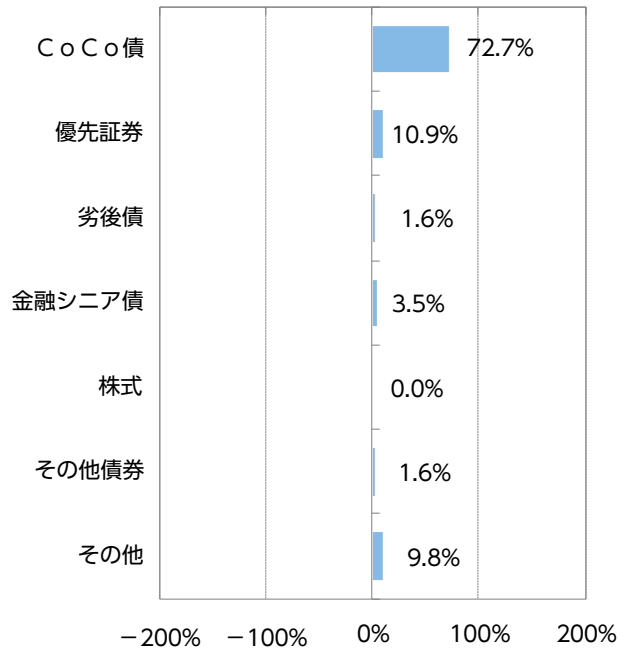
国・地域別構成比率

米国	27.4%
ドイツ	15.3%
オランダ	13.8%
イギリス	11.9%
スペイン	8.6%
その他	22.9%

※対純資産総額比

※国・地域はピムコの分類によるものです。以下同じです。

債券種別構成比率



※対純資産総額比

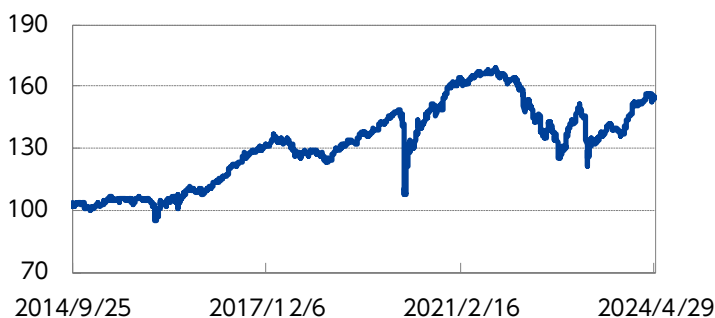
組入上位5銘柄

	銘柄	債券種別	償還日	クーポン	格付	比率
1	クレディ・アグリコル	CoCo債	-	7.250%	BBB	3.7%
2	ロイズ・バンキング・グループ	CoCo債	-	7.875%	BBB-	3.7%
3	ネーションワイド・ビルディング・ソサエティ	優先証券	-	10.250%	BBB-	3.4%
4	H S B Cホールディングス	優先証券	-	10.176%	BBB	3.2%
5	ビルバオ・ビスカヤ・アルヘンタリア銀行	CoCo債	-	8.375%	BB	2.3%

※対純資産総額比

マーケットの状況

CoCo債指数の推移



※ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。
CoCo債指数：ICE BofAメリルリンチ・コンティンジェント・キャピタル・インデックス

為替（米ドル・円レート）の推移



※対顧客電信売買相場仲値のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

※「当月の市況動向」および「ファンドの状況」、「今後の見通しと運用方針」については、ピムコの資料（現地月末営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが合理的と判断した上で作成しています。

当月の市況動向

当月の金融ハイブリッド証券市場は下落しました。米利下げ観測が後退する中、預金金利の上昇により改善を続けてきた米大手商業銀行の純金利収入にも頭打ち感が出てきたことに加え、月末には米地銀が経営破綻したことなどが嫌気され下落しました。

金融ハイブリッド証券のセクター別では、CoCo債は前月比 -0.49% と、旧型劣後債（同 -1.39% ）を上回りました。また、ハイイールド債との比較において、CoCo債は米国ハイイールド債（同 -0.92% ）を上回ったものの、欧州ハイイールド債（同 $+0.07\%$ ）を下回る結果となりました。

(*）金融ハイブリッド証券市場の動きは、ICE BofAメリルリンチCoCoインデックス50%およびICE BofAメリルリンチ優先証券インデックス50%で構成される複合インデックスに基づいています。

ファンドの状況

ポートフォリオにおいては、中長期的な視点に立ち、国・地域別では投資妙味が相対的に高いとみられる欧州や財務健全性の高い米国などに注目しつつ、セクター別ではリスク対比で魅力的なスプレッド（国債に対する上乗せ金利）水準を提供するC o C o 債を高位に組み入れるポートフォリオを構築しています。

当月は、金融ハイブリッド証券市場の下落等がマイナス寄与したものの、米ドル高・円安となったことなどにより、当ファンドの税引前分配金込み基準価額は前月末比で上昇しました。

（※）上記は、「ピムコ バミューダ キャピタル セキュリティーズ ファンドCークラス」（C-USD）／ファンドAークラス」（USD）」が投資しているハイブリッド証券の運用状況です。

今後の見通しと運用方針

2024年の世界経済は、米国を除く多くの先進国では景気が停滞傾向にある一方で、米国は他の先進国に比べて堅調さを維持しており、その他の地域とは一線を画しています。また、世界的にインフレが沈静化する一方、米国では相対的に高い経済成長率を維持している中でインフレは粘着性を保っており、しばらくは政策目標を上回る水準でインフレ率が推移すると予想しています。金融政策については、欧州やイギリスの中央銀行は2024年半ばには利下げを開始するとみている一方、米国では利下げの開始が年末にずれこむ可能性が高まっているとみています。また、欧州やイギリスでは、ひとたび利下げを開始した後はそのペースは速くなり、2025年末時点の政策金利は市場予想よりも低くなる可能性があるかとみています。

当ファンドの主な投資対象であるハイブリッド証券を発行する大手金融機関は、リーマン・ショック以降、財務健全性を高めてきており、自己資本は歴史的にみて高い水準となっています。欧米の中央銀行によるこれまでの利上げを背景に利ざやが拡大し、金融機関の収益は改善してきましたが、欧米の中央銀行が利上げを停止する中、利ざやのさらなる拡大が見込みにくくなっている点には注視が必要と考えます。なお、2023年3月にクレディ・スイス・グループの救済の過程で、スイス当局が市場で想定されていた資本構造における優先順位とは異なる形で普通株式よりも先にAT1債を無価値化するという対応を行いました。その後、AT1債は2023年末にかけて上昇し、現時点では多くの銘柄において2023年3月以前の水準近くまで回復しているものの、今後については発行体によるリターンのばらつきに留意が必要であると考えています。

金融ハイブリッド証券運用にあたっては、各国で金融規制の導入の仕方にばらつきがあることに加え、金融機関においてもビジネスモデルや保有資産の状況、資本水準などが大きく異なることから、当ファンドでは発行体選択や銘柄選択を重視しています。具体的には、財務健全性が高いとみられるイギリスなどの大手金融機関等へ投資を行う方針です。

（※）上記は、「ピムコ バミューダ キャピタル セキュリティーズ ファンドCークラス」（C-USD）／ファンドAークラス」（USD）」が投資しているハイブリッド証券の見通しおよび運用方針です。

ファンドの特色

①主として世界の金融機関が発行するハイブリッド証券※を実質的な主要投資対象とし、金利収入の確保と信託財産の中長期的な成長をめざします。

※ハイブリッド証券とは普通社債と普通株式の特徴を併せ持つ証券で、具体的には劣後債、優先証券等があります。

②ハイブリッド証券運用に関して高い専門性を有するピムコの運用力を活用し、安定した収益の獲得をめざします。

③米ドル（対円）のカバードコール戦略を構築することで、オプション料（プレミアム）収入の獲得をめざします。

④毎月17日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、分配金をお支払いすることをめざします。

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

※将来の分配金の支払いおよび水準について、保証するものではありません。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

●ファンド（指定投資信託証券を含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。

●ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

ハイブリッド 証券投資 リスク	金利変動 リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともないハイブリッド証券の価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、価格が下落します。
	信用リスク	ハイブリッド証券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、価格が下落することがあります。
	ハイブリッド 証券固有の リスク	<ul style="list-style-type: none"> ハイブリッド証券の一部には、発行体の自己資本比率が一定水準を下回った場合や、実質破綻状態にあると規制当局が判断した場合等に、普通株式に強制的に転換される、または元本の一部もしくは全部が削減される条項等がついているものがあります。これらが実施された場合には損失が一旦確定し、ファンドの基準価額が大きく下落する可能性があります。 なお、普通株式に転換された場合には、株価変動リスクを負うこととなります。 一般にハイブリッド証券は、繰上償還条項が付与されていますが、繰上償還の実施は発行体の決定によるため、繰上償還日に償還されることを前提として取引されている証券は、予定期日に償還されない場合、または繰上償還を行わないと予想される場合、価格が下落することがあります。 一般にハイブリッド証券は、法的な弁済順位が普通株式に優先し普通社債より劣後します。そのため、発行体が破綻等に陥った場合、他の優先する債権が全額支払われない限り、ハイブリッド証券の元利金の支払いを受けることができません。 一般にハイブリッド証券は、利息または配当の支払繰延条項が付与されており、発行体の業績および財務状況等が悪化した場合、利息または配当の支払いが停止・繰延べされることがあります。 ハイブリッド証券に関する法制度の変更（税制改正、市場規制等）があった場合、価格が下落することがあります。
カバードコール戦略に ともなうリスク	<p>ファンドは実質的に米ドル建てとなるハイブリッド証券等への投資に加え、米ドル（対円）のコール・オプションを売却するカバードコール戦略を活用します。このため、以下のリスクがあります。</p> <p>円に対する米ドルの為替レートが上昇した場合の為替差益が限定されるため、カバードコール戦略を構築しなかった場合に対して投資成果が劣後する可能性があります。</p> <p>円に対する米ドルの変動率（ボラティリティ）が上昇した場合などには、コール・オプションの評価値が上昇して損失を被り、ファンドの資産価値が減少する要因となることがあります。</p> <p>換金にともないカバードコール戦略を解消する際には、市場動向や市場規模等によっては解消にともないコストが発生し、ファンドの資産価値が減少する要因となることがあります。</p>	
為替変動リスク	外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。	
特定業種への 集中投資リスク	ファンドは金融機関が発行するハイブリッド証券に集中的に投資するため、個別金融機関の財務状況および業績等に加え、金融監督当局の行政方針や金融システムの状況等、金融セクター固有の要因による影響を受けます。そのため、幅広い業種に分散投資するファンドと比べてファンドの資産価値の変動が大きくなる可能性があります。	
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。	
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。	

! 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ

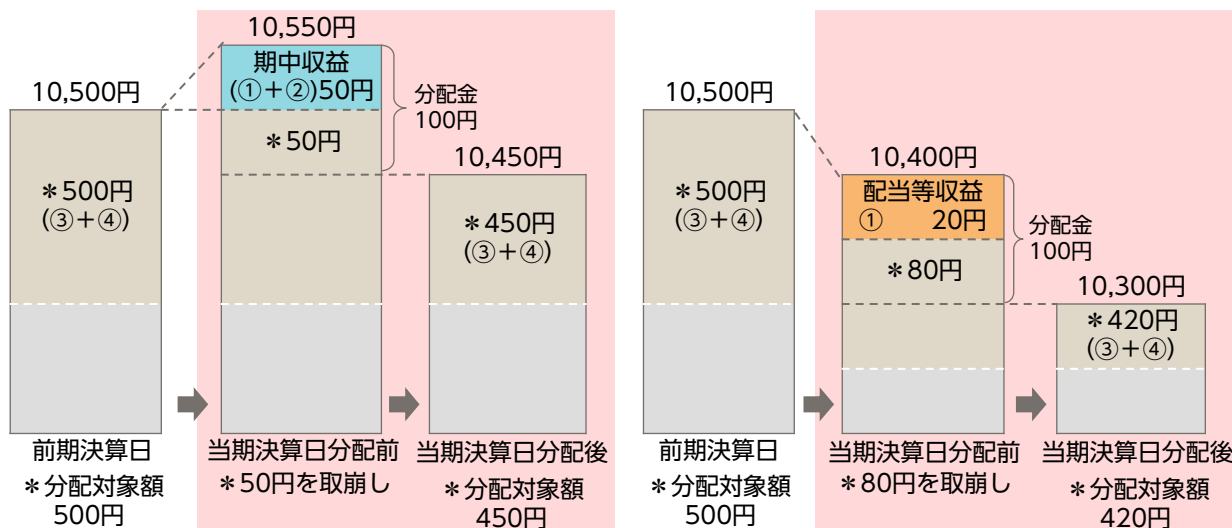


- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合

前期決算日から基準価額が下落した場合



※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配準備積立金：期中収益（①および②）のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてることができます。

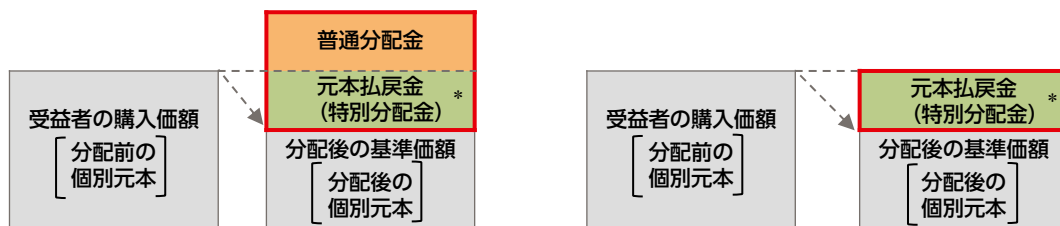
収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

❗上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



* 実質的に元本の一部払戻しに相当する元本払戻金（特別分配金）が支払われると、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本（受益者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

その他の留意点

- ファンドが投資対象とする外国投資信託証券では多様な通貨で発行されるハイブリッド証券に投資しますが、原則として、実質的に米ドル建てとなるように為替取引を行います。したがって、米ドルの金利が当該通貨の金利より低い場合などには、コスト（金利差相当分の費用）が発生することがあります。
- カバードコール戦略におけるオプション取引等に関しては、以下の事項にご留意ください。
 - ・オプション料（プレミアム）の水準は、オプション取引開始日の為替水準、権利行使価格、為替変動率、満期日までの期間等の複数の要因により決まります。このため、当初想定したオプション料（プレミアム）が確保できないことがあります。
 - ・ファンドが売却したコール・オプションは時価で評価され、その評価の変動が基準価額に反映されます。そのため、コール・オプションを売却した時点でのオプション料（プレミアム）収入相当分が基準価額に反映されるものではありません。
 - ・ファンドはコール・オプションを「売却」しますので、コール・オプションの評価値の上昇は基準価額の下落要因となり、コール・オプションの評価値の下落はオプション料（プレミアム）を上限として基準価額の上昇要因となります。
- 有価証券への投資等のファンドにかかる取引においては、その取引相手の業績悪化（倒産に至る場合も含む）等の影響により、あらかじめ定められた条件で取引が履行されないこと（債務不履行）が生じる可能性があります。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。
これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消する可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金の申込みの受け付けを行いません。
決算・分配	決算日	毎月17日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年12回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2024年9月17日まで（設定日：2014年9月25日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の対象です。ただし、2024年1月1日の税法の改正により、以降は対象となりません。詳しくは、販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.3%（税抜3.0%） を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎日	運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの純資産総額に年率2.0185%（税抜1.835%）をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
		投資対象とする 指定投資信託証券
	実質的な負担	ファンドの純資産総額に 年率2.0185%（税抜1.835%） をかけた額となります。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ⚠ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ⚠ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方となります。
ただし、2024年1月1日の税法の改正により、以降は一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。対象は税法上の要件を満たしたファンドを購入した場合に限られ、当ファンドは2024年1月1日以降、NISAの対象となりません。
詳しくは、販売会社にお問合せください。
- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く）
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	ホームページ https://www.nam.co.jp/
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
auカブコム証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
キャピタル・パートナーズ証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第62号	○			○
クレディ・スイス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第66号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社(※1)	○		東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
マネックス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
UBS SuMi TRUSTウェルス・マネジメント株式会社	○		関東財務局長(金商)第3233号	○	○	○	
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）		○	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）		○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）		○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社（委託金融商品取引業者 UBS SuMi TRUST ウェルス・マネジメント株式会社）		○	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	

(※1)一般社団法人日本STO協会にも加入しております。